

はじめに

この度の東日本大震災で甚大な被害を受けられた東北3県を始めとする各被災地に対して、心からお見舞いを申し上げます。

今回の東日本大震災被災地支援ボランティア活動は、生徒自らが活動に参加し、互いが支え合う社会の仕組みを学ぶとともに、他の人々や社会のために役立つ体験を通して豊かな心情を培うことを目的として活動を企画したところ、「奈良県高等学校生徒会連絡会」が中心となり、県内国公私立高等学校から31校79名の生徒が参加してくれました。

活動は、第一団（8月17日～20日）と第二団（8月21日～24日）に分かれ岩手県陸前高田市、宮城県気仙沼市において行われ、あいにくの天候であったものの参加生徒は終始熱心に取り組み、地元の方から「ありがとう」等のねぎらいの言葉をかけられるなど、大いに感謝をいただいたと聞いています。

また、ボランティア活動に参加した生徒の感想文には、「生命尊重の精神」、「助け合いの精神」、「自己有用感」の高揚が語られ、ボランティア活動参加の充実感を得られたことが綴られています。

このように参加した生徒は、大きな成果をもち帰ってくれました。この成果を参加した生徒だけでなく、県内すべての高校生が思いを共有するために、各高等学校で報告会等の取組が進められています。そして、今、私は、「確実に何かが変わった」という生徒の言葉に、教育がもつ可能性、そして子どもたちがもつ無限の可能性を改めて実感しています。

結びに、今回のボランティア活動の実施にあたり、県内高等学校、生徒引率の先生方並びに参加生徒の保護者の皆様方など、多くの方々からの御支援・御協力に感謝申し上げますとともに、この報告書が、県内の高等学校、中学校において、命や共に支え合い生きることの大切さを感じる生きた教材として、生徒指導に役立てていただくことを期待しています。

平成23年10月24日

奈良県教育委員会教育長
富岡 将人